痴呆性高齢者のグループホームに関する研究　その５

—千葉県内のグループホームを対象として—

日大生産工　　川岸　梅和
日大生産工（院）　○山根　恭介

１．研究の背景

平成16年6月1日現在における我が国の65歳以上の人口は2471万人で、総人口の19.4%を占めている。また千葉県内においては、平成16年現在の65歳以上の人口は979,968人となり、前年に比べ37,747人、約 4.0%増加している。更に高齢化率は16.1%になり、前年に比べ0.7ポイントの増加となる。「介護保険制度」は平成12年4月施行され、平成15年4月に介護報酬が改定され、更なる介護サービスの質の向上がはかられている。

２．研究の目的

千葉県老人保健福祉計画では、今後の福祉サービス整備の重点課題の一つに、痴呆性高齢者のグループホームをあげているが、国内は勿論、千葉県内においても痴呆性高齢者の利用できるグループホームはいまだ必要供給数を満たしていない現状であり、質的側面も重要視していく必要性がある。本研究では，千葉県内の痴呆性高齢者グループホームの住環境や高齢者の生活状況等を訪問調査により把握し，介護責任者・スタッフの住環境等の評価及び満足度に関してアンケート・ヒアリング調査し整理した上で，グループホームの平面構成との相関的な分析を行うことにより現状を明確にし，各々の傾向を明らかにし知見を得ると共に、今後のグループホームの在り方を探っていくことを目的としている。

３．調査の概要

平成15年4月現在、千葉県より指定痴呆性対応型共同生活介護の認証を受けたグループホーム（77 箇所）に対して、責任者及び介護スタッフへのアンケート・ヒアリング調査、及び住環境を具体的に把握するため、各グループホームにおいて実測調査を実施した。

調査対象グループホームの概要、アンケート項目及びヒアリング項目、アンケート調査方法、有効回答率等は「痴呆性高齢者のグループホームに関する研究（その４）」と同様である。本稿においては、グループホームのユニット形式・介護形態及び平面構成について類型化を行い分析している。

有効回答が得られた千葉県内のグループホーム51箇所の内、1ユニット同一層は19箇所、1ユニット2層以上は12箇所、2ユニット以上同一層は8箇所、2ユニット以上2層以上は12箇所である。ユニット数の合計は74（1グループホーム当たり平均約1.5ユニット）、居住定員の合計は595人（1ユニット当たり平均約8.0人）、スタッフ数の合計は565人（1ユニット当たり平均約7.6人）、回答者数の合計は127人（1グループホーム当たり平均約2.5人）である。

４．評価方法

アンケート項目に対する責任者及びスタッフの評価については、アンケートの回答の中で「満足」を5点、「まあ満足」を4点、「普通」を3点、「多少不満」を2点、「不満」を1点として得点化し、グループホームごとに平均得点を算出し、これを評価得点とした。

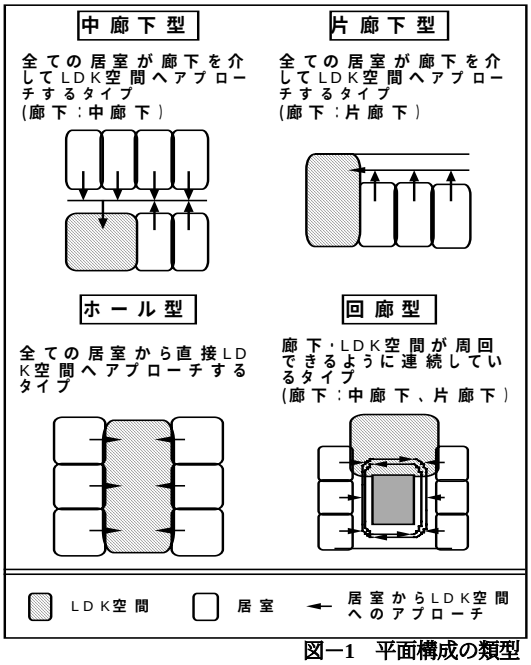
５．グループホームのユニット形式・介護形態及び平面構成による類型　（図－１）

グループホームが使用している建物について、先ず、ユニット数及び介護形態を基に4分類した。次に各々の平面構成について、居室からLDK空間へのアプローチ及び廊下の形状により、図－1に示す通り4分類した。上記の分類を基にグループホームの平面構成について整理すると以下のようになる。

１）１ユニット同一層（19箇所）

①　中廊下型（10個所）
②　ホール型（5箇所）
③　回廊型（1箇所）
④　片廊下型（1箇所）

Study on Group Home for Elderly People with Dementia (Part5)
- A Case Study of Group Homes in Chiba Prefecture -
Umekazu KAWAGISHI and Kyousuke YAMANE



図－1　平面構成の類型

⑤　中廊下・片廊下併用型（1 箇所）

⑥　ホール・片廊下併用型（1 箇所）

2）　1 ユニット 2 層以上（12 箇所）

①　中廊下型（7 箇所）

②　中廊下・片廊下併用型（2 箇所）

③　ホール・中廊下併用型（2 箇所）

④　ホール・片廊下併用型（1 箇所）

3）2 ユニット以上同一層　（8 箇所）

①　ホール型、ホール型　（3 箇所）

②　中廊下型、ホール・中廊下併用型　（2 箇所）

③　中廊下型、中廊下型　（1 箇所）

④　回廊型、回廊型　（1 箇所）

⑤　ホール型、中廊下型　（1 箇所）

4）2 ユニット以上 2 層以上　（12 箇所）

①　中廊下型、中廊下型　（7 箇所）

②　ホール型、ホール型　（2 箇所）

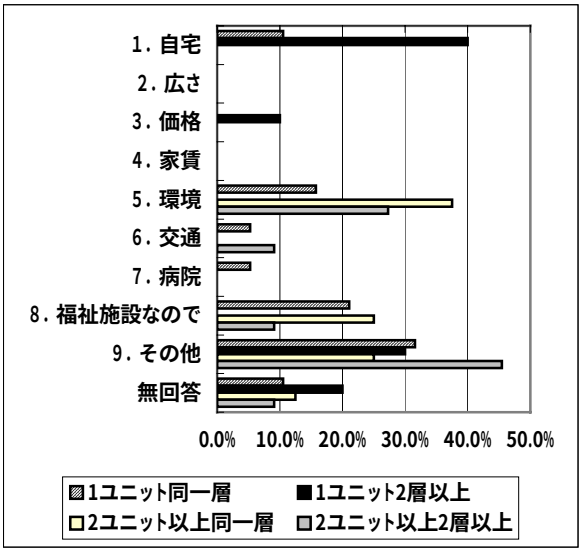
③　回廊型、回廊型　（1 箇所）

④　中廊下・片廊下併用型、中廊下･片廊下併用型（1 箇所）

⑤　中廊下型、回廊型　（1 箇所）

6．グループホームの建築行為　（図－2）

「1 ユニット同一層」では、「新築」が 10 箇所、「住宅改装」が 3 箇所、「宿泊施設改装」が 2 箇所、「介護施設改装」が 1 箇所、「集合住宅改装」が 1 箇所、「寮改装」が 1 箇所、「特養併設」が 1 箇所と「新築」が最も多い。



図－2　グループホーム開設場所選定理由（複数回答）

開設場所選定理由では、「8. 福祉施設なので」が 4 箇所、「9. その他」が 6 箇所であった。その他の理由として、「社員寮として使用していた」「事業主が経営する他の施設の近隣に適当な物件があった」こと等である。

「1 ユニット 2 層以上」では、「新築」が 1 箇所、「住宅改装」が 10 箇所、「集合住宅改装」が 1 箇所と「住宅改装」が最も多い。開設場所選定理由では、「1. 自宅」が 4 箇所、「9. その他」が 3 箇所であり、自宅を改装したグループホームが比較的多く見られる。その他の理由として、「事業主が経営する他のグループホームに近い」「大家さんと知り合いであった」「サービスに適当な物件だった」こと等である。

「2 ユニット以上同一層」では、「新築」が 6 箇所、「医療施設等改装」が 1 箇所、「商業施設改装」が 1 箇所と「新築」が最も多い。開設場所選定理由では、「3. 環境」が 3 箇所、「8. 福祉施設なので」「9. その他」が 2 箇所であった。その他の理由として、「自分の土地である」「もともと建物を所有していた」こと等である。

「2 ユニット以上 2 層以上」では、「新築」が 6 箇所、「集合住宅改装」が 1 箇所、「寮改装」が 4 箇所、「宿泊施設改装」が 1 箇所で「新築」が最も多い。開設場所選定理由として、「5. 環境」が 3 箇所で、「9. その他」が 5 箇所であった。その他の理由として、「事業者が以前から所有する建物を使用した」「土地を所有していた」こと等である。

7．ユニット形式・介護形態の分類における比較・分析

「1 ユニット同一層」では、LDK 空間の占める割合は類

型中最も高い。一人当たりの面積も「2 ユニット以上同一層」に次いで高い。居室面積の占める割合、一人当たりの面積共にほぼ平均値に近い。高齢者の集まる場所について、LDK 空間に集まる割合が類型中最も低い。「自分の部屋」「他人の部屋」の割合は類型中最も高い。また「庭」の割合が高い。LDK 空間の広さに関しての満足度は非常に高く、「部屋の広さ」に関しても同様である。グループホームの総合的な満足度を答えている「居心地のよさ」「住居全体評価」の項目では 2 項目共に平均値以上で、「1 ユニット 2 層以上」に次いで高い値である。

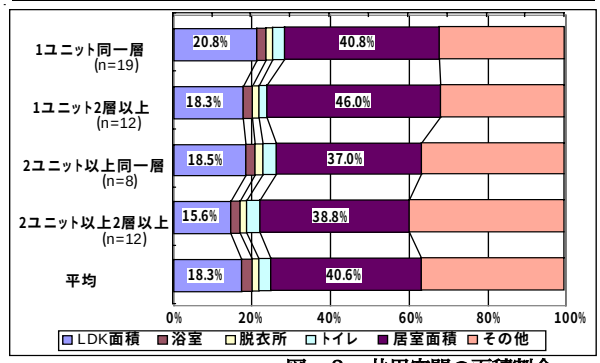
「1 ユニット 2 層以上」では、LDK 空間の占める割合は平均値と同一であり、一人当たりの面積は類型中最も低い。居室面積の占める割合は類型中最も高い。一人当たりの面積は最も低い。高齢者の集まる場所について、LDK 空間に集まる割合は平均値をやや上回っている。「他人の部屋」の割合は類型中最も低い。LDK 空間の広さの満足度は平均値以下である。「部屋の広さ」の満足度も低い。しかし「居心地」「住居全体評価」の 2 項目では他の類型中最も高い満足度である。

「2 ユニット以上同一層」では、LDK 空間の占める割合はほぼ平均値に近い。一人当たりの面積は類型中最も高い。居室面積の占める割合は最も低いが、一人当たりの面積は最も高い。また、その他の共用空間の一人当たりの面積も最も高い。高齢者の集まる場所について、LDK 空間に集まる割合は類型中最も高い。「自分の部屋」の割合は最も低い。LDK 空間の広さに関する満足度は「1 ユニット同一層」に次いで高い。「部屋の広さ」も同様である。しかし「居心地」の満足度は類型中最も低く、「住居全体評価」の値も平均値以下である。

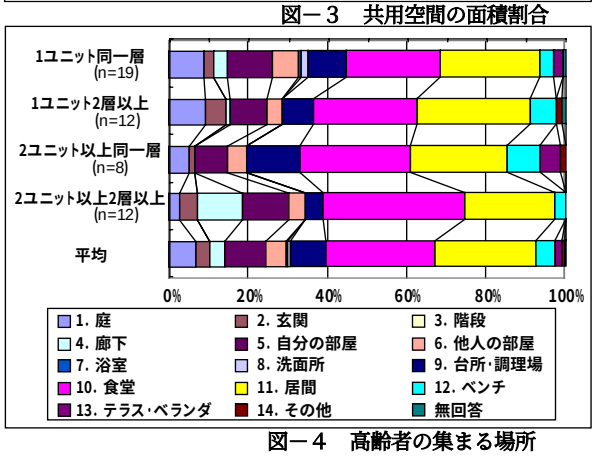
「2 ユニット以上 2 層以上」では、LDK 空間の占める割合は最も低い。一人当たりの面積は平均値を下回っている。居室面積の占める割合は平均値以下であるが、一人当たりの面積は「2 ユニット以上同一層」に次いで高い。高齢者の集まる場所について、LDK 空間に集まる割合は平均値をやや上回っている。「自分の部屋」の割合が高い。「廊下」の割合が他の類型に比べ非常に高い。LDK 空間の広さに関する満足度は類型中最も低い。「部屋の広さ」の満足度は平均値に近い。「居心地」は平均値以下であり、「住居全体評価」は類型中最も低い。

表－1　ユニット形式・介護形態の分類における面積構成
（単位：㎡）

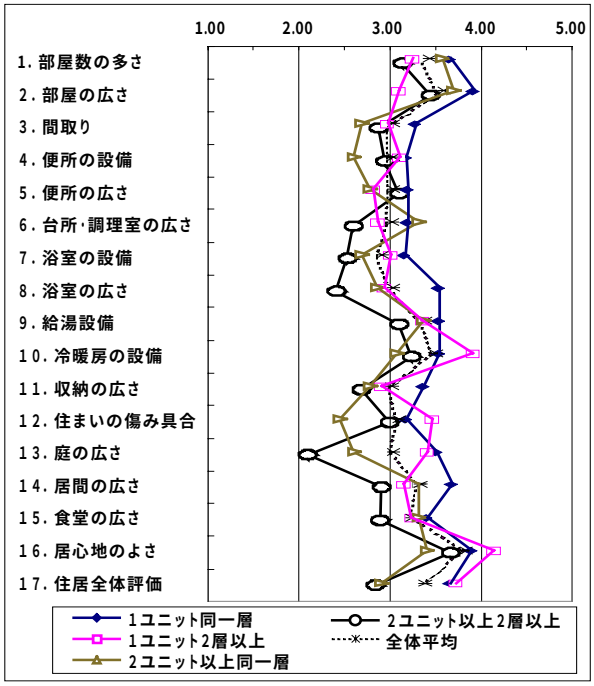
		LDK面積	浴室	脱衣所	トイレ	居室面積	その他	使用床面積	全共用面積
1ユニット同一層	ユニット	53.01	6.46	4.22	7.35	99.48	79.36	249.88	71.04
	一人当たり	6.72	0.82	0.53	0.93	12.60	10.05	31.65	9.00
1ユニット2層以上	ユニット	31.60	4.61	2.98	3.33	78.82	55.95	177.28	42.51
	一人当たり	4.26	0.62	0.40	0.45	10.63	7.54	23.90	5.73
2ユニット以上同一層	ユニット	131.53	17.90	14.59	24.99	263.86	260.30	720.83	196.53
	一人当たり	6.83	0.93	0.76	1.30	13.71	13.52	37.45	10.21
2ユニット以上2層以上	ユニット	90.09	14.58	9.87	20.43	230.53	239.25	604.75	134.97
	一人当たり	5.35	0.87	0.59	1.21	13.69	14.21	35.93	8.02
全体平均	ユニット	76.56	10.89	7.92	14.03	168.17	158.71	438.19	111.26
	一人当たり	5.79	0.81	0.57	0.97	12.66	11.33	32.23	8.24



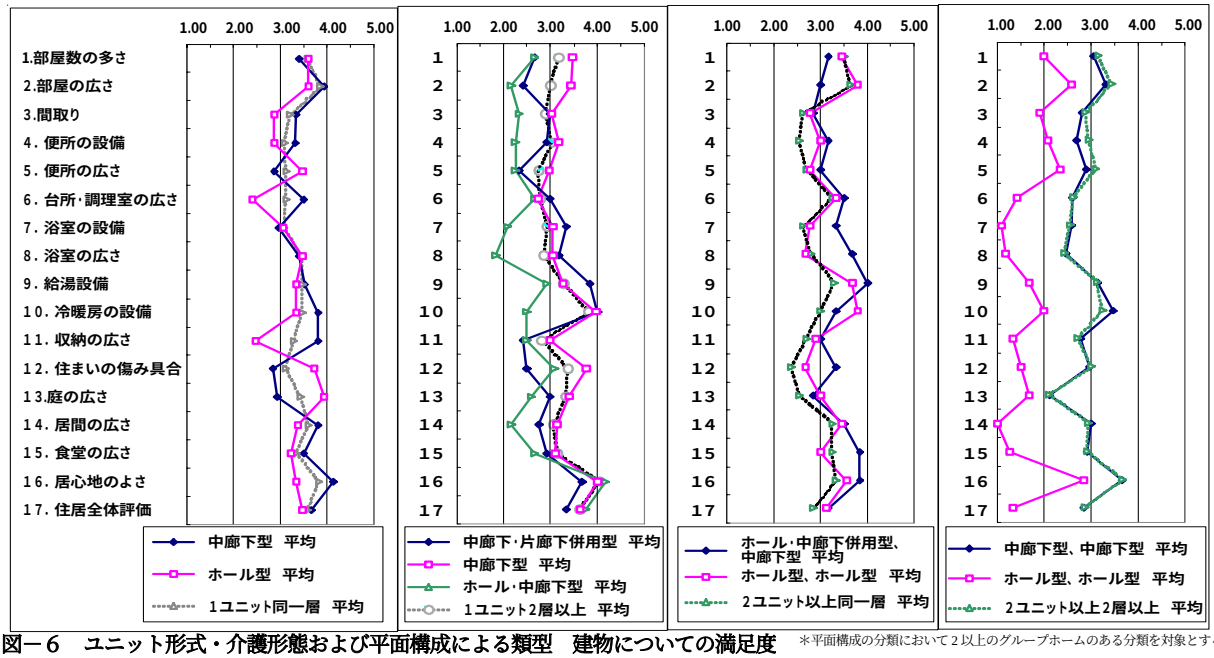
図－3　共用空間の面積割合



図－4　高齢者の集まる場所



図－5　建物についての満足度



図－６　ユニット形式・介護形態および平面構成による類型　建物についての満足度　＊平面構成の分類において２以上のグループホームのある分類を対象とする

８．平面構成の分類における比較・分析

「1 ユニット同一層」で「中廊下」「ホール型」を比較すると、LDK 空間の広さに関する満足度は「中廊下型」が上回っている。「ホール型」は「台所・調理室の広さ」「収納の広さ」の満足度が非常に低い。「居心地」の評価は「中廊下型」が大きく上回っているが、「住居全体評価」には大きな違いはない。

「1 ユニット同一層」では「中廊下・片廊下併用型」「中廊下型」「ホール・中廊下併用型」を比較する。「ホール・中廊下併用型」の満足度が全体的に低い。しかし「居心地」「住居全体評価」は最も高い。「中廊下・片廊下併用型」は LDK 空間、居室ともに「ホール・中廊下併用型」に次いで低い評価である。「居心地」「住居全体評価」も最も低い。「中廊下型」は著しく満足度の低い項目はない。

「2 ユニット以上同一層」では「中廊下型、ホール・中廊下併用型」「ホール型、ホール型」を比較する。「中廊下型、ホール・中廊下併用型」は居室に関する項目以外は平均値以上である。「ホール型、ホール型」もほぼ平均値以上である。両類型共に高い評価であるといえる。

「2 ユニット以上 2 層以上」では「中廊下型、中廊下型」「ホール型、ホール型」を比較する。明らかに「ホール型、ホール型」の満足度が低い。「中廊下型、中廊下型」の満足度もほぼ平均値に近く、評価が高いとはいえない。

９．まとめ

ユニット形式･介護形態による類型では「１ユニット同一層」が最も高い評価であるといえる。グループホーム全体の満足度を示す「居心地」「住居全体評価」は LDK 空間、居室の満足度によって決定されることが多い。

１ ユニット当たりの平均の責任者･スタッフ数で比較すると、「1 ユニット」のほうが「2 ユニット」よりも多く、より家庭的な介護が実践できていると考えられる。「同一層」は高齢者の方々の日常の移動を考えると「2 層以上」よりも容易であり、また庭等の空間が身近な存在として確保･利用できるので評価が高いといえる。

平面構成による分類では「2 ユニット以上同一層」の「ホール型、ホール型」の満足度は、「2 ユニット以上 2 層以上」の「ホール型、ホール型」の満足度に比べ、高い評価である。また、「1 ユニット 2 層以上」の「ホール･中廊下併用型」の満足度は低い。このようにユニット形式･介護形態により適した平面構成と適さないものがあると考えられ、今後も継続して研究を行い、ユニット形式･介護形態と平面構成の相互の関係性を順次明らかにすることを課題としている。

本論文に関連する既発表論文

Ⅰ）川岸 梅和, 染谷 佐登子, 梅木 千恵子「痴呆性高齢者のグループホームに関する研究－千葉県内のグループホームにおけるケーススタディ－」日本建築学会計画系論文集　第 580 号, 141－147, pp. 2004. 6

Ⅱ）川岸 梅和 他「痴呆性高齢者のグループホームに関する研究, その 2~4」日本大学生産工学部学術講演会建築部会講演概要, 第 33 回, pp. 121～124, 2000. 12　第 34 回, pp. 89～92, 2001. 12　第 35 回, pp. 5～8, 2002. 12　第 36 回, pp. 247～250, 2003. 12

Ⅲ）川岸 梅和, 染谷 佐登子, 半沢 英理子「痴呆性高齢者グループホームの立地環境及び住空間構成に関する研究－千葉県内のグループホームにおけるケーススタディ－」日本大学生産工学部研究報告 A, pp. 9～20, 2002. 12